

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) **公開実用新案公報 (U)**

(11)実用新案出願公開番号

実開平6-32352

(43)公開日 平成6年(1994)4月26日

(51)Int.Cl.⁵

B 6 5 D 47/36

47/06

識別記号

府内整理番号

Z 8208-3E

G 8208-3E

Z 8208-3E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全2頁)

(21)出願番号

実開平4-68229

(22)出願日

平成4年(1992)9月30日

(71)出願人 000175397

三笠産業株式会社

奈良県北葛城郡広陵町大字寺戸53番地

(72)考案者 林田 光治

奈良県北葛城郡広陵町大字寺戸49-1

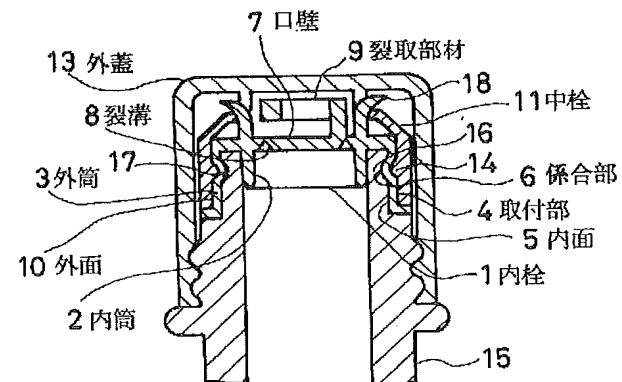
(74)代理人 弁理士 斎藤 侑 (外2名)

(54)【考案の名称】 容器の蓋

(57)【要約】

【目的】 合成樹脂製で内筒及び外筒により容器の口部を挟持し、外筒内面の突起状の係合部を、口部外周の凹状の係止部に係合し、かつ流体の通口を遮断する口壁に無端上の裂溝を設け、該口壁上に裂取部材を設ける形式の、容器の蓋において、容器を資源として回収し易くするための、その容器からきわめて除去し易い、容器の蓋の提供。

【構成】 外筒及び内筒により容器口部を挟持する内栓の、流体の通口を遮断する口壁に裂溝を設け、又外筒内面の突起状の係合部を、容器の凹状の係止部に係合させ、同外筒の外面に、上下方向に弱化ラインを有する中栓11を装着させ、この内栓及び中栓を覆う外蓋を、前記容器に装着した。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 合成樹脂により形成された、容器の口部に装着される内栓1；該内栓1に設けられた、内筒2及び外筒3による取付部4；該外筒3の内面5に形成された、容器口部の凹状の係止部に係合する突起状の係合部6；上記内栓1に形成された流体の通行を遮断する口壁7；該口壁7に形成された無端状の裂溝8；該裂溝8内側の、前記口壁7上に設けられた裂取部材9；前記外筒3の外面10に接して設けられた、合成樹脂製の中栓11；該中栓11に形成された上下方向の弱化ライン12；該中栓11及び前記内栓1の両方を覆って装着される外蓋13；から成ることを特徴とする容器の蓋。

【図面の簡単な説明】

【図1】この考案の実施例を示し、容器の蓋を、容器に装着した場合の断面図である。

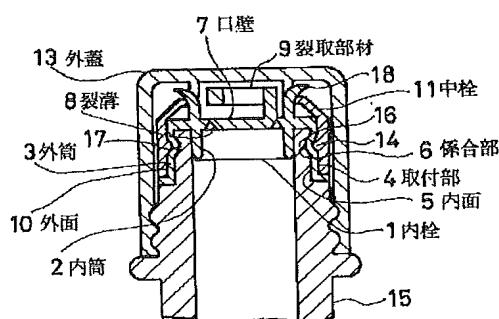
【図2】この考案の実施例を示し、容器の蓋の部分の斜視図である。

【図3】この考案の実施例を示し、図2に示す部分の正面図である。

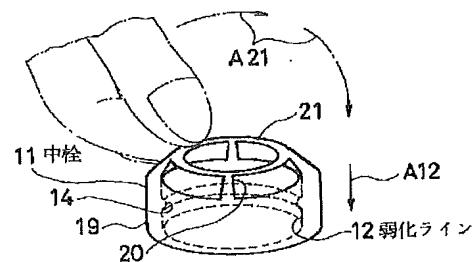
【符号の説明】

1	内栓
2	内筒
3	外筒
4	取付部
5	内面
6	係合部
7	口壁
8	裂溝
9	裂取部材
10	外面
11	中栓
12	弱化ライン
13	外蓋

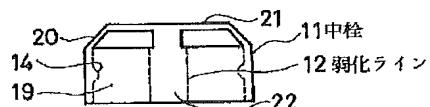
【図1】



【図2】



【図3】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

この考案は瓶等の容器の口部に装着して用いられる容器の蓋に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

従来瓶等の容器は、その内容品の使用後回収し、資源として再利用する場合がある。この場合その容器に装着されている蓋等を取り除き、その容器のみ収集する。これは通常容器と蓋とは使用材料が異なるため、材料が混合しないように蓋を予め取り除く必要があるためである。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

しかし上記のように瓶等の容器から蓋を除去する場合、現在の蓋は一般に容器の口部を内外から固く挟持して嵌着されていて、容易に除去することができない。

この考案はこのような課題を解決するためになされたもので、その目的は、通常は固く容器口部に嵌着されていて、その容器の回収の際にはきわめて容易に容器の口部から除去することのできる、容器の蓋を提供することである。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

上記の目的を達成するこの考案について述べるとそれは、合成樹脂により形成された、容器の口部に装着される内栓1；該内栓1に設けられた、内筒2及び外筒3による取付部4；該外筒3の内面5に形成された、容器口部の凹状の係止部に係合する突起状の係合部6；上記内栓1に形成された流体の通行を遮断する口壁7；該口壁7に形成された無端状の裂溝8；該裂溝8内側の、前記口壁7上に設けられた裂取部材9；前記外筒3の外面10に接して設けられた、合成樹脂製の中栓11；該中栓11に形成された上下方向の弱化ライン12；該中栓11及び前記内栓1の両方を覆って装着される外蓋13；から成ることを特徴とする容

器の蓋である。

【0005】

【作用】

消費者等の使用者は、まず外蓋13を外し、次に前記裂取部材9を用いて裂溝8を裂切り、そこに通口を形成して、この容器の内容品を注出させて使用する。次に、この容器の内容品が消費されてしまって、この容器が回収された場合について述べると、回収の作業員はまず前記外蓋13を外して除去し、次に前記中栓11、をその上下方向の弱化ライン12によって裂切り、これを除去する。

【0006】

そうすると前記内栓1の外筒3が現れる。そして同外筒3の係合部6による容器の係止部に対する係合は、それを外側に外れないように、即ち弹性変形できないように前記中栓11が設けられていたものであるが、そして又上記係合部6による係合は、中栓11が設けられていることにより従来のものよりも弱く前記口部を挟持させてあり、このため中栓11の除去後、内栓1を容易に口部から外し取ることができる。

【0007】

【実施例】

図1において1は内栓であり、合成樹脂により形成され、内筒2及び外筒3により容器15の口部16を挟持して嵌着させられている。5は上記外筒3の内面であり、そこに前記容器15の口部16外面に形成された凹状の係止部17に係合する係合部6が設けられている。

【0008】

7は前記取付部4の内側に一体に形成された、流体の通行を遮断する口壁であり、同口壁7に無端状に裂溝8が形成されている。9は該裂溝8の内側で、上記口壁7に設けられたプルリング状の裂取部材を示す。18は注出筒である。次に11は合成樹脂製の中栓であり、図2、及び図3に示すように形成され、筒状の本体19に裂切り易い連結片20を介してリング21が設けられており、前記内栓1の外面10に接して設けられており、これは前記内栓1が、何等かの理由により弹性変形して前記口部16から外れることのないように、即ち押さえ部材と

して装着されている。

【0009】

14は該中栓11の内面に設けられた凸状の掛合部であり、前記内栓1の係合部6の凹状内面に掛けさせられる。次に12は上記中栓11に、中栓11の上下方向に形成された弱化ラインで、一例として、溝内に形成されたミシン目により形成されている。

【0010】

但しこの弱化ラインは製溝により形成されていても差支えはない。又その他連続的に設けられた小孔等であってもよく、又はそれらの組合せによって形成されてもよく、裂切り易く、弱化されたラインが形成されていれば種類は問わない。22はリング21に続く裂取部である。次に13は外蓋であり、一例として合成樹脂により形成され、前記内栓1、中栓11を覆って前記容器15に装着され、一例として螺着させられている。

【0011】

なお前記内栓1は、前記のように中栓11によりその外周をカバーされて、弹性変形を防止され、そのままでは取り外し困難のように形成されているが、内栓1の外筒3は中栓11の設けられていることにより、従来の同種中栓より若干薄く形成されており、このため内栓1自体は従来のものよりも取り外しが容易に形成されている。

【0012】

この実施例の作用は、前記のこの考案の作用と殆ど同様であるが、消費者等の使用者は、まず外蓋13を外し、裂取部材9を上方に引っ張り、製溝8を裂切つてそこに通口を形成し、容器15を傾けて注出筒18から内容品を注出して使用する。

【0013】

内容品が消費されるとこの容器15は資源として回収される。その場合回収の作業員はまず外蓋13を除去し、次に図2に示すように前記中栓11の前記リング21を摘み、矢印A21方向に引っ張り、それにより接続片20を裂切り、ついでA12方向に引っ張ることにより、弱化ライン12を裂切り、この中栓11を

除去する。

【0014】

そうすると前記内栓1の外筒3が現れる。そしてこの外筒3は前記中栓11により外側から押さえられているため、従来の同種の外筒よりも若干薄肉に形成することができ、従って若干薄肉に形成されてあるので、かつ又中栓11により弾性変形を抑制されていたのであるが、中栓11の除去により外側に弾性変形することができるため、そのように弾性変形させて容易に上方に抜き取ることができる。こうして容易にこの蓋を容器15から除去することができる。

【0015】

【考案の効果】

この考案は前記のように構成されたことにより、この蓋を装着した容器から蓋を除去する際、外蓋13を外し、中栓11の弱化ライン12を裂切ってこの中栓11を除去する。このように構成したことにより、前記内栓1を従来のものよりも外方に弾性変形し易く形成でき、こうすることによりこれを弾性変形しつつ容易に抜取ることができる。

従って通常は固く容器口部に嵌着されていて、その容器の回収の際には、きわめて容易にこの蓋を、容器15から除去することができる。